

T児 (小3男子) 平成10年7月作成			
問題の解釈と支援仮説	ADHDのために、多動、多弁、即反応性、混乱状態などの行動が見られる。 また、学習に対する強い拒否感により、字を書いたり、席について学習したりすることを嫌がり、学習へは全く取り組もうとはしない。教室から出ていくことも多い。学習において、安定できる環境や集中できる環境を設定したり、思いっきり楽しめる遊戯的・体育的・感覚的な体験的活動を十分に味わわせたりすれば、学習に興味を示し、少しでも取り組むことができるようになるであろう。		
長期目標 (1年後の姿)	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 学習に興味を持ち、自分から少しでも取り組むことができる。(約20分) ◇ 混乱状態に陥った時、教師の支援を受け入れることができる。 ◇ 不登校の改善。(※親友をつくる) 		
短期目標	支援の手立て	感想	評価
◇ 学習に興味を持ち、少しでも取り組むことができる。(10分程度)	<ul style="list-style-type: none"> ● 集中できる学習環境の設定。 ● 成功体験を積みませ、自信を持たせる。 ● できる課題から少しずつステップをあげていく。自己有能感・自己肯定心を持って学習に引き込んだり、やらせたりしないように配慮する。 ● 興味を持つ素材、熱中できる素材を見つけて出し、教材化を図る。(過集中) ● 長所、才能を見つけ、伸ばす。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 勉強、学習に対する強い拒否感を示している。 ● 勉強嫌いはずいぶん強いです。 ● ポケモンが大好きなので教材に生かす。 	
◇ 基礎学力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ● かけ算九九の定着。 ● 1～2年生の漢字の定着。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 1～2年生の学習目標は達成。 	
◇ 教師の支援を受け入れて、自己行動を調整できる。	<ul style="list-style-type: none"> ● 共感的人間関係の確立。 ● 温顔で接し、思いや願いを受け止める。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 自分を持ち支えてくれることが大変。 	
◇ あいさつ・返事	<ul style="list-style-type: none"> ● 時と場に応じて、適切に支援していく。 ● SST 	<ul style="list-style-type: none"> ● 保護者との連携 ● 信頼関係の構築 	
◇ 制服で登校する。 ※学校では着替え	<ul style="list-style-type: none"> ● スモールステップで支援を進める。 ● 心の成長を願い、無理強いはいしない。 		
(本人の願い) <input type="checkbox"/> 先生と一緒にたくさん遊びたい。(ゲームやおにごっこなど) <input type="checkbox"/> 鉄棒(さかあがり)が上手になりたい。(マラソンで)速く走りたい。			

教育支援シート

四 研究の実際

《活動場面の作成：総時数八時間》

図画工作科「段ボールでポケモンランドをつくらう」

1 作成の視点

- (1) 協力し合って段ボールにポケモンの絵を描く。その段ボールを教室の後方に組み立て、すべり台等の遊具も設置し、楽しく遊ぶことができるようにする。

- (2) 中に、自分だけの空間、安心できる居場所(以下「部屋」)を個々に設定する。
- 作成の実際(省略)

《検証授業：総時数九時間》

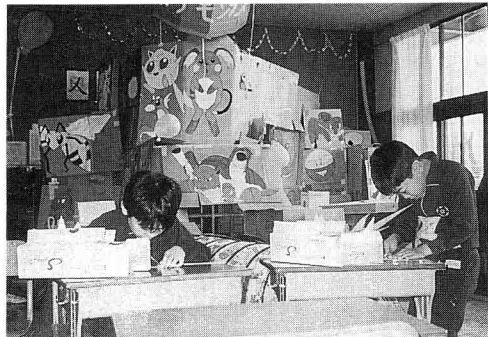
第三学年算数、単元「三角形」

1 第一時「二等辺三角形と正三角形の定義」(省略)

2 第二時「二等辺三角形と正三角形の弁別」

- (1) 授業の目標
ポケモンランドの中から三角形を見つけ出し、辺の長さに着目して弁別することができる。

- (2) 授業の実際
T児は、宝探しの要素を取り入れた学習内容に興味を示し、教師の働きかけを受け入れて、四十分間楽しく学習に参加した。



意欲的に取り組む

S児は、教師の言葉かけや簡単な補助を受け、定規を使って辺の長さを正確に測り、弁別できた。

- (3) 考察
ポケモンランドが自由のびのびと自己表現できる許容的な雰囲気を生み出し、児童の心の開放や情緒の安定を図ることができた。

そして、学ぶ楽しさや満足感を味わい、意欲的に学習に取り組むことができたものと思われる。

3 第三時「二等辺三角形の作図」(省略)

4 第四時「正三角形の作図」

(1) 授業の目標

ポケモンランドに付いている正三角形に、同じ大きさの正三角形を作図してはり合わせるができる。

(2) 授業の実際

T児は、学習が始まると急に、「学校には遊びに来ていないだ！勉強は絶対にしないからね！」と泣き叫び、自分の「部屋」にこもってしまう。声をかけても「うるさい！あつちへいけ！」と言ひ、学習に参加することはできなかつた。その後、「部屋」で好きな本を読んだり、横になつてくつろいだりしているうちに気持ち次第に落ち着いてきた。学習後半は、立ち直り、S児に教えたり、一緒に正三角形をはつたりして、楽しく学習していた。

Y児には、ADHDと甲状腺機能亢進症に起因する混乱状態に陥る様子が見られた。コンパスを思うように使えず怒り出し、「もうやらない！」と言ひながら、コンパスや鉛筆を教師に投げつける。「手伝